

第5B（中）分科会 —教職員の専門性に関する課題—

提案主題 教職員の資質・能力の向上を図るための教頭の役割
—ミドルリーダーとの関係を中心に—

司会者	宇佐市立北部中学校	瀬野香
提言者	宇佐市立院内中学校	藤崎敬司
助言者	中津市立山口小学校校長	桑野正弘
記録者	宇佐市立長洲中学校	臺野美知代

1 協議の柱

- ・教職員の資質・能力の向上に向け、互いの資質、能力がリンクしあいながら学校全体が組織的に取り組んでいくために教頭がどうかかわればよいか。

2 協議の実際

(1) 教職員の資質・能力の向上について

- ・自己申告シートの面談に入り指導・助言をする。個人面談だけでなく、分掌部会でも面談を行い、認める発言や助言を行い、資質・能力の向上を図る。
- ・2～3クラスある場合は、若い人とベテラン組み合わせ、学び合いができるようにする。
- ・自分の学校だけでなく隣の学校と連携して教科部会をもち切磋琢磨させる。

(2) 学校全体が組織的に取り組んでいくための教頭のかかわりについて

- ・ミドルリーダー的な立場にある教務主任や学年主任をいかに育てていくか、そして教頭がどのように関わっていくかがそれぞれの学校でかかえている課題である。
- ・本当に必要なリーダーをどの位置につけるかが重要である。
- ・教頭が内容や方向性を示し、各部リーダーに下ろす。リーダーが部員をまとめ、話し合い、報告してくる。教頭がそれに対して意見を言い、リーダーは再考する。この流れの中で、それぞれにアイデアを出させることが職員の自己効力感の向上につながると考える。

3 指導助言

- ・日常のOJTに教職員の資質・能力の向上は係わってくる。子どもに対する願いや目的、こんな力をつけたいといったことを相手にしっかり伝え、諸条件などもはっきり示す。目的・条件がはっきりする方がアイデアも出しやすい。そのアイデアに対して意見交流を行い、活動にすぐ移すことで更にやる気を引き出す。このような日常の活動が大事である。
- ・「スキルがあっても自己実現に活かすことができない」といった課題に対しての取組は、授業改善である。授業の中にこそ自己実現の場があるかを見直してほしい。そのために、学年や教科にかかわらずみんなが授業の中でやれることをシンプルに追求していくことが大事である。取組状況をセルフチェックし、更に分掌会議等の中でお互いの状況を報告し合うことで自分の授業課題に気づいていく。1点突破、全面展開の体制である。
- ・教頭と主要主任、主任と担当者等との相談時間を生み出すこと。そのために、ムダを省いていく。日々の気づきや問題点をメモ等にも書き留めておく。できるものはすぐに改善。時間があるときに改めて見直すと、全体につながった改善点と課題が見えてくる。